

教えて！！漢方&鍼灸

附属東洋医学研究所

助教 田中香代子

教えて！！漢方&鍼灸



漢方薬は感染症なしでは語れません Vol.2

前回は、後漢の時代の流行病をきっかけに著された『傷寒論』という医学書をご紹介します。感染症の際には体の強さと病期の勢い、症状、時間経過、脈によって必要な漢方薬が異なるというお話でした。

今回は、『傷寒論』の中に登場する感染症に対する漢方薬についてお話しします。



よく「インフルエンザには麻黄湯！」「新型コロナウイルス感染症に葛根湯が効くと聞いたのですが、本当ですか？」と言った声を耳にします。これは、半分本気で半分間違いです。

インフルエンザの初期症状は悪寒がして関節痛、発熱、頭痛などありますが、通常の風邪に比べると関節痛の程度が強いと感じる方が多いと思います。『傷寒論』には「麻黄湯」という漢方薬は、「悪寒、発熱、関節痛、頭痛などがあり、まだ汗をかいていないという時に用いる」と記載されています。この症状は先ほどのインフルエンザの初期症状と似ていませんか？

『傷寒論』に記載される「麻黄湯」を使う目標とインフルエンザの初期症状が似ていることが多いために、「インフルエンザに麻黄湯を使う機会が多い」というわけです。インフルエンザでも、麻黄湯を使うほど元々の体が強くない方や熱と一緒に既に汗をかいている方などには、他の漢方薬を選びますので、「インフルエンザには麻黄湯！」というわけではありません。

『傷寒論』の中では、「葛根湯」は「悪寒があり、項（うなじ）がこわばり、汗をかいていない時に用いる」と記載されています。同じ症状でも、既に汗をかいている場合は、使用する漢方薬が異なります。「新型コロナウイルス感染症には葛根湯！」と決められる訳ではなく、症状に合わせて漢方薬を選んでいった結果、新型コロナウイルス感染症の初期に葛根湯を使う機会が多かったとなることは十分あり得ると思います。感冒症状に用いる漢方薬は、病名に対して使うのではなく、時期・症状・体力などで変わってくるということが一番お伝えしたいことですが、もう一つだけ追加で漢方の服用タイミングについてお伝えしたいと思います。

今回登場した「葛根湯」も「麻黄湯」も風邪に使う場合は、ごく初期に使用します。急性期の症状に使う漢方薬の内服は、症状が気になりだしてすぐ、フライングする勢いで飲んでいただくことで、効果が出やすいです。患者さんにも、症状が出たら「早め早めに内服してください」とお願いしています。漢方薬の服用タイミングもとても大切です。

葛根湯や麻黄湯を始め、『傷寒論』に記載のある漢方薬には、私自身、初期の体調不良に早めに使用することで、ずいぶん助けてもらってきました。もちろん、初期の対応が間に合わなかった時も、症状に応じた漢方薬を使用しています。1800年以上前にできた薬が、時を経て今でもこれだけ効果があることに、いつもドラマを感じます。

今回は「腰痛の原因はストレス！？～ストレス社会における鍼灸治療のすすめ～」です。

